１．教員養成の目標及び目標達成のための教育計画

スポーツ科学専攻は、スポーツ健康福祉学科における教員養成をさらに発展させるとともに、本学大学院の理念に基づいた高度な専門職業人を養成することを教育目標としています。従って、具体的教員養成の目標は、『人の生活を科学し、人の生活を支援する』という本学大学院の生活支援科学に立脚し、『健康や体育・スポーツの幅広い専門的視野とスポーツ科学の知識を持ち社会のニーズに対応・貢献できる高度な専門職業人として教員養成』を目指しています。

そのために、学校教育現場との連携を図りながら、保健や体育実技の専門知識と指導実践力を確実に身に付けられるよう理論と実践の往還を軸に専修免許状取得のための教育を進めます。

以下に、本専攻におけるカリキュラムと学修の過程を示しています。

まず必修科目として、本学大学院博士前期課程及び修士課程を構成する7専攻の共通科目「生活支援科学特論」（1年前期2単位）を配置し、栄養学、健康福祉学、臨床心理学、リハビリテーション学、子ども学、看護学を専門とする教員が、オムニバス形式でそれぞれの専門領域からみた生活支援について学際的に探求します。 次に、スポーツ科学の基礎となる理論や研究に関わる知識を教授する基礎分野として、7つの選択科目を配置します。「地域スポーツ支援学特論」（1年前期2単位）、「学校保健体育支援学特論Ⅰ」（1年前期2単位）は、将来活躍できる職域分野の支援方法や課題発見、解決を論究し、支援者、教育者としての資質、能力を培います。

さらに、ライフスタイルに応じた健康スポーツや競技スポーツの基盤となる理論や概念を科学的な視点で捉えるための「健康運動科学特論」（1年後期2単位）、「健康スポーツ医学特論」（1年後期2単位）、「スポーツ心理学特論」（1年後期2単位）、「スポーツ生理学特論」（1年前期2単位）、「スポーツ栄養学特論」（1年前期2単位）を配置しています。

また、地域やスポーツ関連団体、学校教育の場において活躍する、高度な実践力及び研究の基礎的能力を備えた専門職者を育成する展開分野として、各職域に必要である基礎的知見の理解をさらに深めるとともに、質の高い実践とそれを探究する能力を養う7つの選択科目を配置します。「学校保健体育支援学特論Ⅱ」（1年後期2単位）、「身体教育特論」（1年後期2単位）は、高度な学校教育現場での保健体育の教育方法を探究する能力の養成を目指します。さらに、その実践的能力を展開し教育現場における問題解決や指導の資質、能力とともに教育観を培うための「学校保健体育支援実践研究（大学院教育実習）」（1～2年6単位）を配置しています。「運動処方特論」（1年後期2単位）は、個人及び集団の健康の維持増進に貢献するスポーツの役割の理解を深め、「スポーツバイオメカニクス学特論」（1年前期2単位）は、スポーツを科学的に理解し実践に適用する高度な能力を養います。「幼児運動・スポーツ支援学特論」（1年前期2単位）は、将来のスポーツ活動を発育期から探究する科目として配置しています。

本専攻の教員養成における特徴は、中学校及び高等学校専修免許状取得のために「学校保健体育支援特論Ⅰ」（保健に関する領域）、「学校保健体育支援論Ⅱ」（運動に関する領域）及び「学校保健体育支援実践研究」（大学院教育実習）を必修とし、教科に関する高度な専門性と生徒の主体的学びを軸とした授業デザイン力を身に付けるための、理論と実践の往還を重視した修学過程をイメージしています。そして中学校と高等学校の発達段階を踏まえ運動に関する領域では、運動やスポーツの価値や特性から運動・スポーツの楽しさや喜びを見出すとともに、体力の向上と運動・スポーツとの多様なかかわり方を思考し教育実践に取り組めること、保健に関する領域では健康・安全の観点で、心身の健康の維持増進やそれを支える環境づくり、地域づくりの重要性を理解し健康な生活習慣獲得の教育実践に取り組めることを高度専門職業人としての資質能力ととらえています。